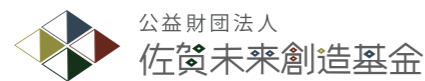
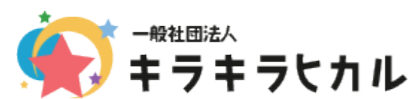


Achievement Odyssey

Three-year Review



佐賀県における「子ども第三の居場所」コミュニティモデル運営支援事業報告書(2021年7月～2024年3月)

制作:公益財団法人 佐賀未来創造基金

〒840-0813 佐賀市唐人二丁目5番25号
TEL 0952-26-2228
FAX 0952-43-7047
Mail info@saga-mirai.jp



協力(子ども第三の居場所 運営団体):

特定非営利活動法人 空家・空地活用サポートSAGA
一般社団法人 かがみこどもプラザ
一般社団法人 キラキラヒカル
一般社団法人 ここてらす

佐賀県における「子ども第三の居場所」コミュニティモデル運営支援事業報告書

(2021年7月～2024年3月)

このパンフレットは、日本財団 2023年度 佐賀県における『子ども第三の居場所』コミュニティモデルの運営支援事業の助成を受けて作成しています。





本報告書の趣旨

2021年より3年間、日本財団 子ども第三の居場所事業の助成を受けて、佐賀県内に4つの「子ども第三の居場所」が開設・運営され、2024年度からは各運営団体による自立運営という形で継続されています*。

弊財団は、佐賀県、日本財団との三者協定を締結し、そのパートナーシップとご協力をいただきながら、各運営団体への伴走支援を行ってきました。

本報告書では、その事業モデルを可視化することで、本報告書を手にとっていただける方と、各運営団体との協働や支援の創出、並びに、新たに地域に必要な機能として子ども

第三の居場所の開設を志す方の参考となるように、これまでの事業の軌跡や成果をまとめたものとなります。

本事業を実施するにあたって、日本財団、佐賀県、運営団体をはじめ、行政、各種支援団体、地域住民、地域の企業・事業所など、本当にたくさんの方々にご支援・ご協力をいただくことで全うすることができました。

この場を借りて、感謝申し上げますとともに、今後ともかわらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

※ 4団体のうち1団体は、2025年度からの自立運営となります。

もくじ

● ごあいさつ	1	● 佐賀県における行政との包括的な協働	14
● 子ども第三の居場所事業について	2	● 各市町からの応援メッセージ	15
● 子ども第三の居場所拠点マップ	3	● 子ども第三の居場所を応援する	16
● 拠点紹介	4	● 子ども第三の居場所支援者の皆様 (ボランティア含む)	17
● 居場所そら	4		
● ミライエ	6		
● 子どもの居場所『じゃんぷ』西唐津	8		
● ここてらす	10		
● 伴走支援の取り組み	12		

ごあいさつ

MESSAGE

この度、日本財団様の助成を受けて、佐賀県における子ども第三の居場所運営支援事業を実施させていただきました。また、本事業で、助成と伴走支援をさせていただいた県内4拠点の団体様においても、大変なご尽力ありがとうございました。

3年間の助成事業を通して、子ども第三の居場所事業に取り組んだことは、社会全体にとって非常に重要な効果をもたらすものと改めて実感しています。

子どもたちが安心して過ごし、成長していける場所を提供することは、次世代の健全な発展と社会全体の福祉にも貢献するものであるからです。

昨今、子どもの貧困問題は、経済的な面だけでなく、関係性の貧困、体験・経験の貧困、それらによる、貧困の連鎖など様々な問題を抱えています。

子ども第三の居場所で提供される機能は、「安心して過ごせる居場所」「健康を支える食事」「正しい生活リズム」「学習のサポート」「体験機会」「地域や大人とのつながり」「保護者のフォロー」など多種多様です。この機能により、子どもたちとのコミュニケーションを通じて、様々な課題・困難を抱える子どもの早期発見、支援、そして、専門機関・行政との連携による解決へと結びつく役割を担っています。

また、本事業を遂行するにあたり佐賀県様をはじめ、佐賀市様、唐津市様、基山町様には、たいへんご尽力・ご協力を賜り、ほんとうにありがとうございました。各自治体様のご協力により、各拠点の児童集め、自立に向けた支援者獲得において大きな違いを生み出せました。

結びになりますが、この3年間の助成期間が終わり、唐津拠点(ミライエ、子どもの居場所「じゃんぷ」西唐津)、基山拠点(ここてらす)は、自立運営をスタートさせます。(佐賀拠点(居場所そら)は次年度より自立運営) 子ども(第三)の居場所を自立して運営していくことは、簡単なことではありません。これからも子ども第三の居場所各拠点のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

みんなが、みんなの子どもを育てる社会の実現と、その先によりよい佐賀の未来のために、今後ともよろしくお願いいたします。

公益財団法人 佐賀未来創造基金
代表理事 山田 健一郎

子ども第三の居場所について


ABOUT

すべての子どもたちに、安心できる居場所を

家庭が抱える困難が複雑・深刻化し、地域のつながりも希薄になる中、子どもが安心して過ごせる居場所がなく、孤立するケースは少なくありません。

すべての子どもたちが未来への希望を持ち、安心して過ごすことができる「子ども第三の居場所」が地域にあることで、この居場所が地域のハブとなり、子育てコミュニティを形成し、「みんなが、みんなの子どもを育てる」社会を目指しています。

本事業では、2021年度から3年度※1にわたり、日本財団様の助成をうけて「佐賀県における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの開設と運営支援」事業を実施させていただきました。

💡 日本財団 子ども第三の居場所 紹介ページ → 



TOPICS

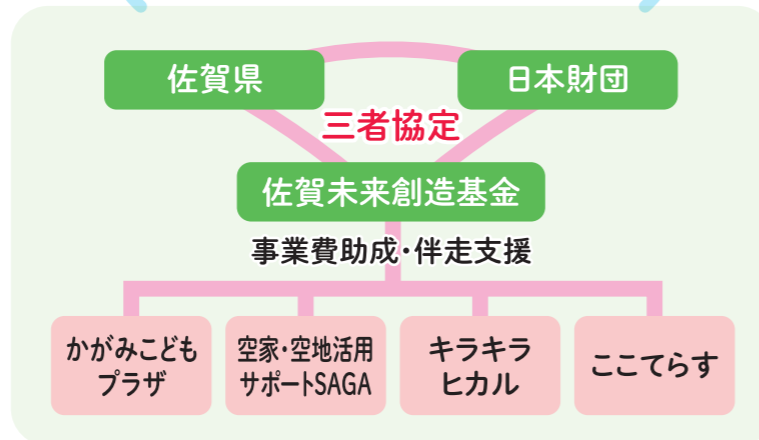
子ども第三の居場所『コミュニティモデル』とは

日本財団 子ども第三の居場所事業では、『常設ケアモデル』『学習支援モデル』『コミュニティモデル』の3種類の事業モデルがあり、今回取り組んだモデルは『コミュニティモデル』です。このモデルは、すべての子どもたちが、未来への希望を持ち、社会を生き抜く力を育むことのできる機会と環境を提供する居場所として、『安心して過ごせる居場所』『健康を支える食事』『正しい生活リズム』『学習サポート』『体験活動・地域とのつながり』『保護者へのフォロー』など、子どもが生活・成長するうえで必要な機能を備えるほか、地域の方も立寄り、多世代交流を行うことで、人と接する力や自己肯定感を高め、また、地域の方々とのつながりを深めて、課題のある子どもの早期発見や見守りにつなげることも期待されています。

子ども第三の居場所 開設・運営に係る伴走支援事業

本事業では、県内4団体(P3参照)が運営する子ども第三の居場所の事業に助成を行い、佐賀未来創造基金がその事業実施と、事業終了後の自立に向けた伴走支援を行う形で実施しました。尚、本事業の実施にあたり『佐賀県』『日本財団』『佐賀未来創造基金』で三者協定を結び、官民一体となって、本事業推進の協力体制を整えました。

佐賀県・日本財団・佐賀未来創造基金での三者協定



2021年11月 佐賀県知事を表敬訪問し、事業採択の報告を行いました。



子ども第三の居場所 拠点マップ

【基山拠点】

ここてらす

- 所在地:三養基郡基山町宮浦259-43
- 運営団体:(一社)ここてらす
- 代表者:代表理事 入江 航

➡ 詳細ページ:P10

【唐津拠点】

子どもの居場所『じゃんぷ』西唐津

- 所在地:唐津市ニタ子1丁目9 ニタ子公民館
- 運営団体:(一社)キラキラヒカル
- 代表者:代表理事 田中 雅美

➡ 詳細ページ:P8

【唐津拠点】

ミライエ

- 所在地:唐津市鏡2536-1
- 運営団体:(一社)かがみこどもプラザ
- 代表者:代表理事 宮崎 佳代子

➡ 詳細ページ:P6

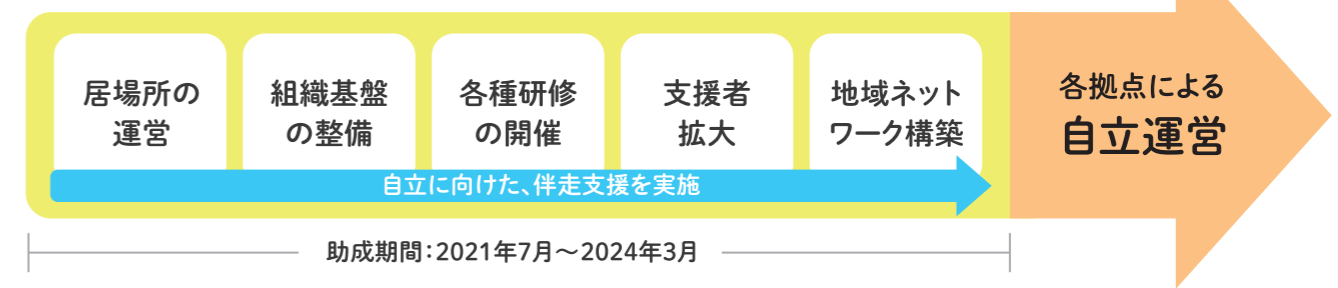
【佐賀拠点】

居場所そら

- 所在地:佐賀市唐人二丁目5番15号 TOJIN館
- 運営団体:NPO法人空家・空地活用サポートSAGA
- 代表者:代表理事 塚原 功

➡ 詳細ページ:P4

各拠点の事業実施と、事業終了後の自立運営に向けて、佐賀未来創造基金が伴走支援をさせていただきました。



※1 2021年7月から2024年3月まで



街なかで多様な交流を創出する多機能拠点

運営団体：特定非営利活動法人 空家・空地活用サポートSAGA



子ども第三の居場所「居場所そら」は、子どもやママ、地域の方々が気軽に來れて、自分の居場所として、多世代間交流の場として利用いただける空間です。

遊びに來た子たちが自由にそれぞれの時間を過ごし、一緒に來たママさん同士の交流や、子どもたちと地域の方々の多世代間交流の場として利用していただける居場所となっています。

拠点は、3階建ての建物を活用。1F・2F・3Fにそれぞれの「居場所機能」と「その他の機能」が融合されており、居場所に來た子どもたちがどのフロアで過ごしていても、大人の目に見守られているような効果を生み出しています。



ースとして活用されています。

2F(学習・食事・キッチン)・3F(プレイルーム)は、同フロアにNPO等向けのシェアオフィスもあり、入居NPOの方と連携して子どもたちに必要な支援を届ける活動にも取り組まれています。

1Fは、カフェ機能やワークスペースとしても活用できる「L-terrace」があり、居場所に來た子どもたちを出迎えたり、クリスマス・ハロウィンパーティなどのイベントを実施するスペースとして活用されています。



事業によって得られた成果

コミュニティモデルという特性を活かし、貧困などの利用条件を設けず、制限なしで受け入れ、課題のある子に対しては個別に対応するスタイルをとってきました。

開所以来、小学生のみならず、中・高・大学生や保護者様にと幅広いご利用がありました。その中で我々の考える成果として大まかに3つ挙げられます。

① 補食

長期休暇中には昼食を、通常学校日にはおにぎり、共通してお菓子・ドリンクを提供中です。

現在は日本財団の助成金で賄っておりますが、助成後も見据え当所の活動を発信し、周知の結果、個人様・企業様からのご寄付を頂き、不自由なく十分な提供ができてきました。

② 多世代交流

未就学児～自由に集うからこそその交流が生まれています。年代・学校の違う友人ができ、兄弟のような関係も築けています。それぞれ自由に遊んでいることももちろんありますが、学年問わず、皆でトランプなどをする様子は微笑ましい光景です。時に上の学年の子どもに、言葉使いや所作を注意されることも。学校では得られない独特の経験は居場所ならではのものだと思います。

③ 共働き世帯・ひとり親家庭・小4の壁

共通していることは子どもたちの「孤立」「孤食」、晩御飯の時間が遅い点です。子どもたち自身と保護者様とどちらも不安がある部分を、当所を利用することで、週3でも軽減出来ていると考えています。

運営後に見えてきた課題と対応案

近年学校は危険回避に努められていますが、家庭は共働き世帯・ひとり親家庭がほとんどを占め、学童保育も小4どころか、小3までも待機のケースがある中で、安全を確保して過ごす場所に困る「放課後難民」が増えています。犯罪や事件・事故に繋がりがねません。

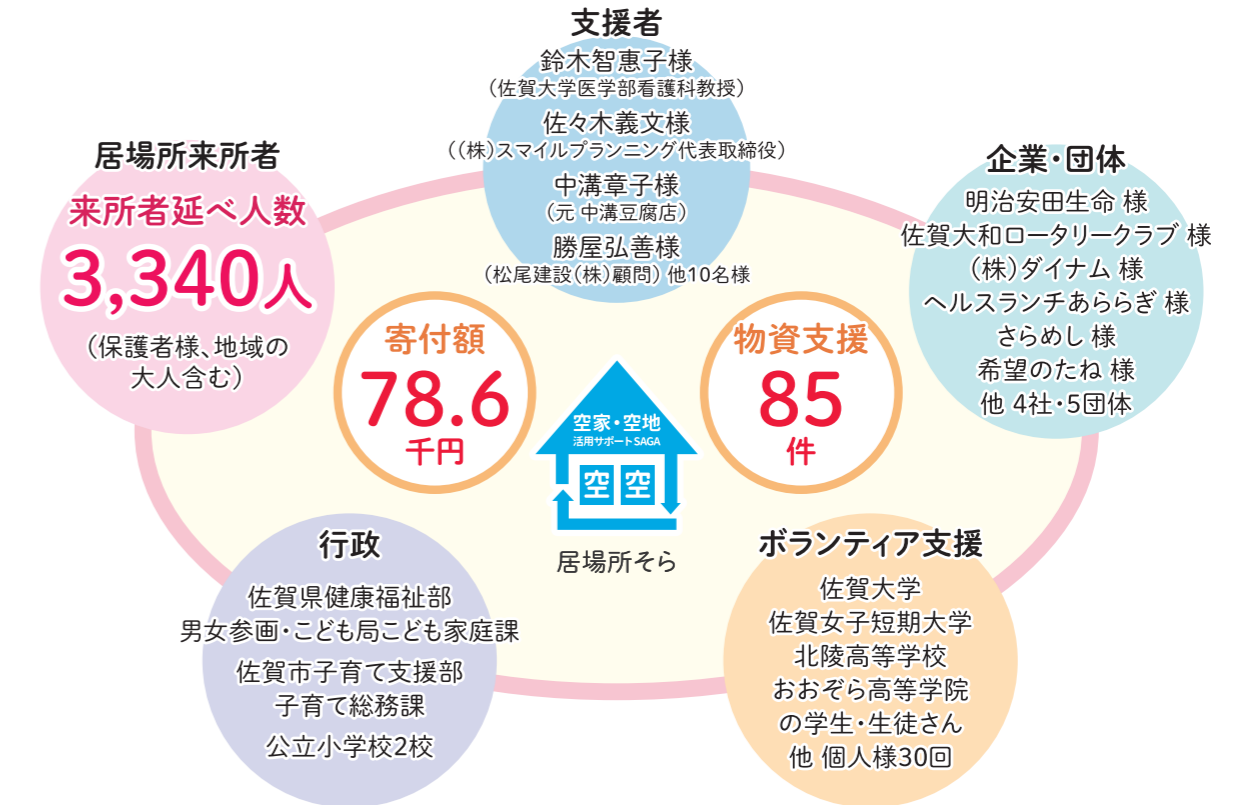
社会情勢の変化の中、併せて子どもたちの取り巻く環境を整えていくことは、待ったなしの喫緊の課題として、子ども家庭庁が発足し子どもの居場所への取り組みも盛り込ま

れています。いずれはコンテンツの1つとして行政と協力しつつ地域に根ざす居場所・子ども食堂がスタンダードになると考えています。

そして今、その過渡期であり確立期だと言えます。そのためには企業の皆様・地域の皆様のご支援・ご協力が不可欠です。どうか手も口も出して地域で子どもたちを育てて下さいますようご支援宜しく願い申し上げます。

■ 事業実施により得られたステークホルダ

(令和5年12月現在)



利用者コメント Yさん(佐賀市内 子ども2人と利用中)

ご縁があつて佐賀に転居してからすぐに「そら」の事を知りそれ以来親子で楽しく通わせていただいています。
・放課後に活動できる数少ない場所
・転校生の子にとってはリラックスして過ごせる場所
・障がい児も他の健常児と触れ合える大切な場所としてとても助かっています。
今後も引き続き通いたいと思っているので宜しくお願い致します。

担当者コメント スタッフ 高山さん



開所以来常に需要はどういったことだろう?と手探りで最初からあれこれ決めず運営してきました。実際に子どもたちや保護者様の要望や現状を、聞ける範囲でお尋ねしていくうちに「居場所そら」は形づくられてきました。そして、これからも都度柔軟に形を変えるスタイルが「そら」らしいと思います。いずれ地域に溶け込んで当たり前存在になれたら嬉しいです。そのために地域には居場所が必要だと伝えていきたいです。


支援者コメント 株式会社 ダイナム さん

子供たちだけではなく、地域の方が気軽に來れる素晴らしい居場所の提供ありがとうございます。これからも微力ですが協力していきたいです。頑張ってください。

2024年度以降の開所情報

- 📍 場所:佐賀市唐人二丁目5番15号 TOJIN館
- 🕒 開所時間:月・水・金(15時～18時)
(長期休暇期間中は変更あり)
- 💰 料金:無料(イベント時は保護者負担金有り)
- ☎ 連絡先:080-4465-3524

ミライエ 遊べる♪学べる♪食べられる♪だれでもゆっくり過ごせる
(未来への家) 「子ども第三の居場所」 運営団体:一般社団法人 かがみこどもプラザ



「ミライエ(未来への家)」は、誰もが気軽に立ち寄り、大人の見守りの中で子どもたちが、安心して安全に過ごせる「子ども第三の居場所」です。小さな施設ではありますが、ここには子どもたちの大きな夢とたくさんの未来が詰まっています。ミライエは、2階建ての一戸建て施設です。

1階にはキッチン、ダイニングルーム、お風呂、洗面所、トイレがあり、遊びやお話などができるコミュニティスペースです。おもちゃ遊びやゲームなど、子どもたちは自主的に遊びを見つけ、自由に過ごします。

ここでは、平日ほぼ毎日が「こども食堂」です。夕方になるとみんなで食卓を囲み、温かい食事でお腹も心も満たされる、拡張家族のような居場所です。

2階には学習室と図書コーナーがあり、来所するほとんどの



子どもは、下校後学校から真っ直ぐミライエに来て、ここで宿題をしています。上級生が下級生に優しく教えてあげている光景は、大変微笑ましくかけがえのない時間です。また、不

定期ですが現役の小学校教諭による学習指導もあります。ミライエでは季節ごとにイベントも行います。春はイチゴ狩りやお花見、夏はプール遊びやそうめん流しにバーベキュー、秋はレクリエーション大会やゲーム大会、冬はクリスマス会や節分祭など。

2024年度は日本財団様からのご招待で「海洋体験ツアーIn沖縄」に参加させていただき、子どもたちは沖縄で貴重な体験をしました。



事業によって得られた成果

ミライエは佐賀県でいちばん児童数の多い鏡山小学校区にあります。

小学校近くにある当施設には、下校後ランドセルを背負ったまま来所する子どもが多く、子どもたちのゴールデンタイムである放課後を楽しみ過ごす憩いの居場所となっています。

また、放課後児童クラブへの待機児童も多く、下校後に子どもだけで留守番や、大型商業施設などで過ごすケースも見受けられます。

就業等様々な理由で放課後子どもと一緒に過ごせない保護者の皆さんにも、ミライエは安心を提供しています。

運営後に見えてきた課題と対応案

当団体は、「地域の子どもは地域で育てていこう」の考えのもと長年にわたり子どもの居場所づくりを行ってきました。時代の変化とともに少子化にも輪がかり、子どもたち同士の交流も希薄になってきたことで孤独孤立が大きな課題になってきています。

子どもたちにとって、今後ますます「居場所」は必要となってくると痛感しています。

子どもの健全な育成支援のためにも、引き続き皆さまのご支援をいただきながら、この「子ども第三の居場所」の活動を継続させていただきたいと思っております。

ミライエ(未来への家)紹介動画

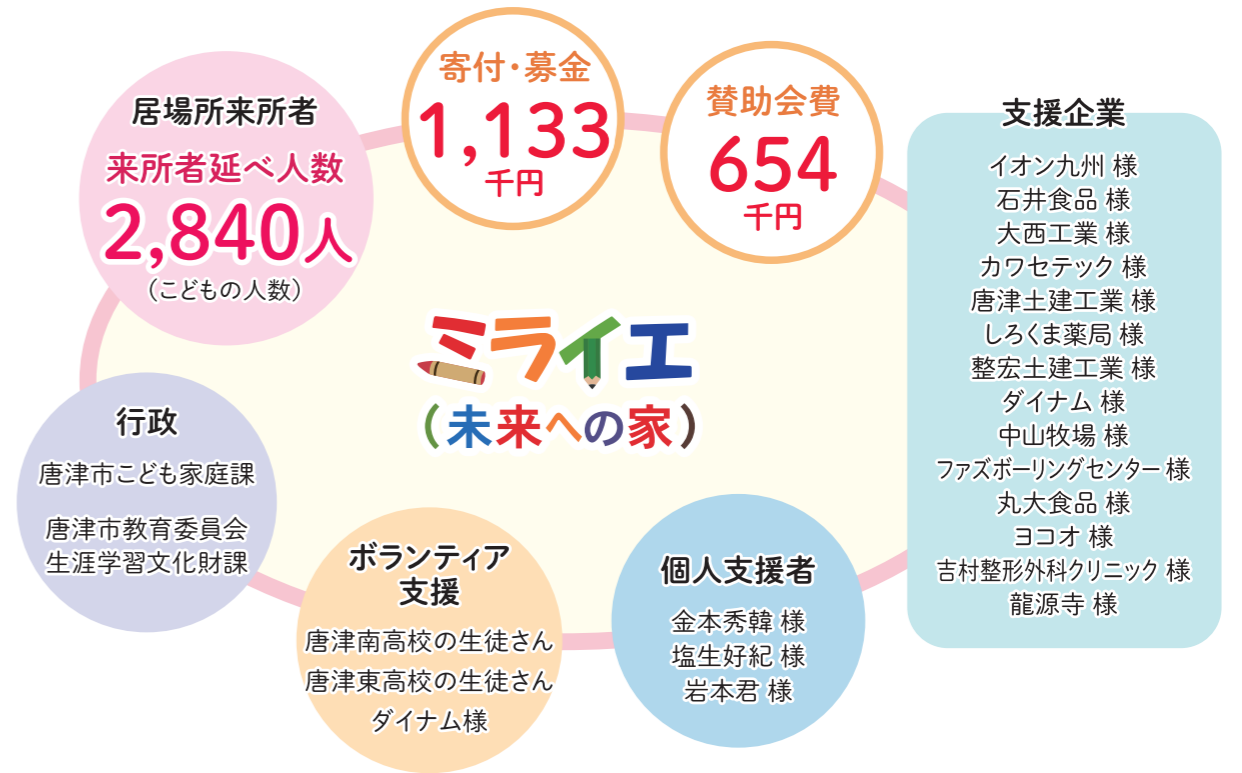
かがみこどもプラザさん作成の子ども第三の居場所「ミライエ(ミライエへの家)紹介動画がYoutubeに公開されています。

<https://bit.ly/48X5rXe>



■ 事業実施により得られたステークホルダ

(令和5年12月現在)



担当者コメント 代表 宮崎さん



全ての子どもは誰もが、生活を保障され、愛され、守られ、育てられる権利があります(児童福祉法第1条に基づく)。しかし、いきすぎた賤やいじめ、子どもの貧困などで、生き辛い世の中です。

社会の中に埋もれがち子どもたちに明るい未来を描いてもらいたいと願い、子どもの居場所づくりを行ってきました。

子どもたちの心の声に耳を傾け、彼らがありのままの自分でいられる居心地の良い居場所を今後も作っていく所存です。



いつもご支援くださる皆様・企業様へ

事業期間中、たくさんの食材・物品寄付を頂戴し、本当にありがとうございました。今後も、ミライエ継続の為、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

利用者コメント 岩石沙弥香さん

同学年はもちろん、ミライエでは上級生や下級生とも遊ぶことができるので、学校とは違うお友達がたくさんできました。

アットホームな環境で子供達を見守ってくださり安心していつも利用させて頂いています。

2024年度以降の開所情報

- 場所:佐賀県唐津市鏡2536番地1
- 開所時間:平日・月・金・土 (14時~17時)
- 料金:無料
- 連絡先:090-4585-1123